

知っている
がひろがると

知りたい
がもっとひろがる

たくさんの知らない
に挑む

脳神経科学の話

第34回日本神経科学大会

こころの脳科学 – Neuroscience of the Mind

市民公開講座

2011.9.10 [土] 13:30-16:45

仙台国際センター・白樫

[定員] 250名 *入場無料・事前申込不要

[対象] 高校生・一般

[プログラム]

13:30 開会：挨拶

大隅 典子 (第34回日本神経科学大会会長・東北大学大学院医学系研究科教授)

13:40-14:20 講演1「問題を解く脳の働き」

虫明 元 (東北大学大学院医学系研究科教授)

14:20-15:00 講演2「薬の歴史ーアセチルコリンと記憶をめぐる」

池谷 裕二 (東京大学大学院薬学系研究科准教授)

15:00-15:20 休憩

15:20-16:00 講演3「市販かぜ薬や鼻炎薬による“鈍脳”」

谷内 一彦 (東北大学大学院医学系研究科教授)

16:00-16:40 講演4「ヒトとはどんな動物か？」

ーヒトとチンパンジーの同じところと違うところー

長谷川 真理子 (総合研究大学院大学教授)

16:40-16:45 閉会

[主催] 第34回日本神経科学大会

[共催] 東北大学脳科学グローバルCOE、東北大学包括的脳科学研究・教育推進センター

[後援] 宮城県教育委員会

*本講座は、文部科学省科学研究費研究成果公開促進費の支援を受けています。

第34回日本神経科学大会
The 34th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society
Neuroscience 2011





虫明 元 むしあけ はじめ

東北大学医学部生体システム生理分野教授。1987年東北大学大学院修了、医学博士。1989年-1993年ニューヨーク州立大学医学部生理学学科 Peter L. Strick 教授の元でポスドクの後、東北大学医学部第二生理学講座助手、同助教授を経て、2005年より、現職。前頭葉特に前頭前野と運動野における行動調節機構を、問題解決の観点から研究している。著書に「問題解決とその神経機構」(「認知科学の新展開2 コミュニケーションと思考」分担 岩波書店 2001年)、学習と脳 ―器用さを獲得する脳―(サイエンス社、2007年)など。[http://www.neurophysiology.med.tohoku.ac.jp//](http://www.neurophysiology.med.tohoku.ac.jp/)



池谷 裕二 いけがや ゆうじ

東京大学・大学院薬学系研究科・准教授。1998年東京大学大学院薬学系研究科にて博士号取得。コロンビア大学留学などを経て2007年より現職。専門分野はシステム薬理学 (systems pharmacology)、神経回路学 (neurocircuitology)、グリア生理学 (gliophysiology)。海馬の研究を通じて、脳の健康や老化について探求している。主な著書に『記憶力を強くする』(講談社)、『進化しすぎた脳』(講談社)、『単純な脳、複雑な「私」』(朝日出版社)など。研究室のHP：<http://hippocampus.jp/>



谷内 一彦 やない かずひこ

東北大学大学院医学系研究科教授 (機能薬理学分野)。仙台一高卒、東北大学医学部卒。米国留学の時を除いて15歳から、仙台在住。研究内容は、広義の薬理学研究、基礎開発から臨床応用までの分子イメージング研究、ヒスタミンの分子・神経薬理学、膵β細胞の分子薬理学、臨床薬理学 / 臨床研究の倫理、ポジトロン標識化合物の基礎開発と応用、アルツハイマー病の分子イメージング。研究室のHP：<http://www.miec.umin.jp/cgi-bin/gaiyo.cgi>



長谷川 真理子 はせがわ まりこ

総合研究大学院大学 教授。東京大学理学部生物学科卒、同大学院修了、理学博士。1980年から2年間タンザニア野生動物局に勤務。専修大学教授、早稲田大学政治経済学部教授を経て、2006年より現職。2011年より先端科学研究科長を務めている。日本進化学会会長、日本人間行動進化学会会長、国家公安委員会委員などを歴任。最近は人間の進化と適応の研究を行っている。著書に「クジャクの雄はなぜ美しい?」(紀伊国屋書店)や「ダーウィンの足跡を訪ねて」(集英社)など、多数。



第34回日本神経科学大会

この公開講座は、第34回日本神経科学大会(会期:9月14日-17日、会場:パシフィコ横浜)の開催にあわせて開催されるものです。日本の脳神経科学の代表的な学会である日本神経科学学会(1974年創立、会員数約5400名)は、毎年、会員の大半が集まり、研究の成果を発表し合う学術大会を開催しています。今年の大会会長を、大隅典子東北大学大学院医学系研究科教授が務め、大会の実行委員会の大半のメンバーが仙台を拠点にしています。会場の都合から大会そのものは横浜で開催しますが、研究成果の進展を広く社会と共有する公開講座は仙台で開催することと致しました。



東北大学と脳神経科学

東北大学は、脳神経科学に長い伝統を持っています。戦前に布施現之助が解剖学で世界に伍す成果を出したことから始まり、第12代総長を務めた大脳生理学者の本川弘一など医学部を中心に盛んに研究が行われ、近年は、脳画像技術でも強みを発揮してきました。2001年に設立された生命科学研究科には脳神経科学を専門とする多くの研究者が結集し、医学系研究科や加齢医学研究所等とあわせて一大拠点となっています。複数の研究科・研究所に分散する脳神経科学研究者を結集するべく、東北大学では、脳科学グローバルCOEという世界的拠点形成のための教育・研究プログラムが2007年から開始され、また、2010年には包括的脳科学研究・教育センターも発足しています。

2011.9.10 [土] 13:30 - 16:45 仙台国際センター・白樺

- [主催] 第34回日本神経科学大会
- [共催] 東北大学脳科学グローバルCOE
東北大学包括的脳科学研究・教育推進センター
- [後援] 宮城県教育委員会
- *本講座は、文部科学省科学研究費研究成果公開促進費の支援を受けています。

[問い合わせ] 大会事務局: 日本コンベンションサービス株式会社 東北支社
TEL: 022-722-1311 FAX: 022-722-1178 E-mail: staff@neuroscience2011.jp
<http://www.neuroscience2011.jp>
[アクセス] 仙台国際センター (仙台市青葉区青葉山無番地)
市営バス: 仙台駅・西口バスプール9番乗り場 (710~720系統) より乗車、「博物館・国際センター前」下車徒歩1分。

